

ほたるしょうだより

【家庭数配布】

豊中市立 螢池小学校 No. 2

令和4年(2022年)5月26日

校長 有元 祐子

なっこうきょういくもくひょう

学校教育目標

ともに学び、活動し、やりぬくよろこびを創造するー学びを力にー

とことんともだち とことんやりぬく ほたるっこ

「**コードモン**」の運用について

豊中市教育委員会が市立小・中学校にて導入しました、保護者と学校との連絡システム（アプリ名称：「コードモン」）につきまして、6月1日（水）より下記のように運用開始します。なお、6月1日をもって切り替えますので、5月31日までは、学校連絡メールを使用し、欠席遅刻連絡はコードモンでの連絡ではなく、今まで通りの方法でお願いします。

- ① 欠席遅刻連絡機能
- システムを用いた連絡は、当日の朝8時30分までをお願いします。（8時30分からの朝の会で、担任が確認いたします。確認しましたら保護者に確認済みの連絡が届きます。学校からの返信機能はありません。）
 - 当日の朝8時30分以降に連絡する場合や、緊急の要件は、従来と同様に連絡帳や電話等で連絡してください。欠席遅刻連絡以外の早退や体育の見学等は、従来通り連絡帳や電話等で連絡してください。
- ② お知らせ配信機能
- 学校連絡メール（すぐメール）から移行します。

＊検温・せき等の体調連絡機能は、従来の紙媒体で行いますので、使用しません。

6月12日の日曜参観について

以前に行われていたふれあい教育研究集会の形ではなく、日曜参観として実施します。下記のように2学年ずつの参観とします。今回も各クラスの参観人数は、保護者1名とさせていただきます。また、参観場所が普通教室の場合は、密を避けるため前回同様に教室内と廊下での参観を半分ずつにさせていただきます。後日、学年や学級から、分け方等については連絡させていただきます。

なお、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等が出ましたら、ZOOMによるオンライン参観に変更します。その場合は、今年度から保護者のお手持ちの機器で見ていただく事になりましたので、1画面での映像とします。

さんかんじかん	【参観時間】			ねんせい	3・4年生	
	9：00～9：45			ねんせい	2・5年生	
	10：00～10：45			ねんせい	1・6年生	
	11：00～11：45			とうこう	（登校はいつも通り、下校は12時です。）	



- 【お願い】＊来校前に検温していただき、発熱や咳等体調が悪い場合は来校をお控えください。
- ＊手洗い・消毒とマスクの着用をお願いします。
 - ＊名札ストラップをつけてください。
 - ＊上履きをご用意ください。上履きは、くつ袋等に入れて各自で教室まで持参してください。
 - ＊自転車は、運動場の西側から順につめて整列駐輪してください。

6年生が戦争体験の聞き取りをしました。

6月19日・20日の修学旅行に向けて、平和学習の取り組みをすすめています。折り鶴集会では、6年生が1年生から5年生の各教室に分かれて、修学旅行に行く目的を伝え、『おりづるの旅 さだこの祈りをのせて』という絵本の読み聞かせを動画にして見てもらいました。全員が折った折り鶴を持参して広島平和公園で平和セレモニーを行います。

先日は、戦争の体験談を聞きました。螢池小学校（当時は、麻田国民学校という名前で、今と同じ場所ですが、木造校舎だったようです）に入学して、戦時下で1年生・2年生を過ごされた体験をお話していただきました。



校舎の2階の教室の窓から軍の飛行場からの戦闘機の離発着がよく見え騒音で勉強に集中できなかったこと。1階の教室には陸軍の兵隊が駐屯していたこと。空襲が激しくなり、戦闘機からの機銃掃射におびえながら命がけで逃げ帰ったこと。豊中大空襲の時には、爆弾が雨あられのように降ってきたのを実際に経験したこと。等々、今の螢池小学校のこの場所で、78年ほど前にあったことです。

裏面に、西宮市のHPに寄稿された文章をご本人の了承を得て載せていいいます。是非、一読していただけたらと思います。

【ほたるしょうだより第1号以降に着任された教職員を紹介します】

（支援学級）	（5・6年生 外国語）
（1年生に関わっていただきます）	（ICT支援員）
（AET アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー）	

戦争体験者が年々減少していく。昭和 15 年生まれの友人に体験があるかと聞くと覚えが無いという。私は 12 年生まれ。後何年生きられるか判りませんが私の戦争体験を回想して記録してみたいと思います。私は昭和 12 年大阪府豊中市の生まれ。父母は病気で若くして他界したので記憶に無い。

祖父母と三人「阪急蛍池駅」より東の静かな住宅地に居住、高台に「薬科専門学校」があり下には静かな池が「三つ」並んでいて初夏の夜は「ホタル」が乱舞していた。池の辺には美しい松並木が続き、奥には「刀根山病院」と「結核療養所」があったように思う。私は 19 年春、「麻田国民学校」に入学。国語の教科書の最初は「サイタ、サイタ、サクラガサイタ」が記憶にある。学校の近くに「軍の飛行場」があり、二階の教室の窓から「戦闘機」が離発着するのが良く見え騒音で勉強に集中出来なかった。一階の教室は陸軍の兵隊が駐屯していた。朝早く学校に行くと炊事当番の兵隊さんが大きな釜で「ご飯」を炊き、横の釜では「みそ汁」を作っていた。当時国民は食糧に事欠き米の飯等口にすることは無かったが、軍には米が豊富に有ったのだろう。「白飯」を炊いていた。炊けた飯を「スコップ」で「バケツ」に入れ各班に配り釜のふちに出来た焦げ飯で「おにぎり」を作り、私にもくれた。まともに食べていない時にありがたく、とても美味しかった。早く学校に行き「ぼん内緒やぞ」と言ってよく貰った。やさしい兵隊さんやった。

二学期ごろから空襲が激しくなり学校で落ち着いて勉強した記憶が無い。警戒警報が発令されると、各地域ごとに校庭に集合、家まで走って帰る。途中アメリカの「戦闘機」の「機銃掃射」に遭う、命がけで逃げ帰る事度々。日・米戦闘機の空中戦は凄まじい光景だった。随分怖い思いをした。学友の中には弾に当たり死亡したり怪我をした者も数名いた。アメリカの「爆撃機 B29」が何十機も「編隊」を組み銀色の翼を光らせ、高度があるのでゆっくり飛んでいるように見えるが爆音が不気味で、いつ爆弾を落されるのかと思うと恐ろしく「防空壕」の中で震えていた。

「大阪大空襲」の時は日中晴天なのに空は煙でまっ黒。肉眼でも太陽がはっきり見えた。燃え上がった物が太陽に照らされ「キラキラ」光り異臭もきつい。爆弾の破裂する音。「B29」の爆音。恐ろしくて、この世のものとは思えない「地獄」を見たようだった。その数日後、蛍池の奥の農村に「爆弾」が落ち村は「全滅」。町内会から救助に行った人の話では「五百キロ爆弾」が「五個」。飛行場に落すのが「的外れ」で農村に落ちたらしい。村の田、畑や家屋は全て吹き飛ばされて「全滅」生き残った人は数名。皆さん大怪我をされていたそうです。爆弾の落ちたあとは「すり鉢型」のとんでもない大きな穴で「蟻地獄」のよう。滑り落ちたら這い上がれないような深い穴だと聞いた。

日増しに空襲が激しくなり飛行場から戦闘機が飛び立っても帰って来ず数が少なくなり飛行場には「木やベニヤ板」で作った「にせ物」の飛行機が並べられていた。「本物」は阪急電車の各駅前

の広場に移動して「竹笹」や「葦ず」等で隠してあったのを良く覚えている。

昭和 20 年 8 月 5 日「終戦少し前」。アメリカの「戦闘機」が「機関銃」で私の家に弾を打ち込み家は「炎上焼失」。町内会総出の消火作業で延焼せず我が家だけでおさまった。二階に大切にしていた亡き母の「嫁入道具一式」、私の五月節句の「武者人形」、跡形も無かった。「悔しい」。腹立たしい怒りが爆発した。何故我が家だけ狙われたのか。今、回想してみると当時長い軍刀を持った軍の上官に二階の部屋を貸していた。それしか思い当たらない。祖母は「ショック」で腰が抜け嘔然としていた。焼け残った物置で祖母と二人の生活は想像を絶するものだった。

「終戦」。まもなく祖母は私の名を呼び手を握り「私は仏になるで一」「惟は精一杯生きよ！！」と言いきれし息を引き取りました。「8 月 31 日 61 歳」町内会長様や町内の世話で簡単な「葬儀」をして頂いた。当時私は 2 年生、一人になってしまった。舞鶴の母方の祖母に中学校卒業するまで世話になった。それからが私の苦難の人生の始まりです。今日、この年まで人並みに真っ当に生きて来れたのは、私自身の努力でもあるが亡き父母、祖父母が見守ってくれたおかげかなと思う。「戦争さえ無ければ」。父母が若死にしなければどんな人生を歩んでいたか。

古稀を迎えた年。62 年ぶりに故郷へ帰ってみた。「阪急蛍池駅」は昔のままだが横に高い商業ビルが建ち「モノレール」の駅が出来ていた。ビルの上階からは「大阪空港」が手に取るように見える。昔学校の窓から見た飛行場とは規模が違う。旅客機の発着するのを見て子供の時見た戦闘機の発着とだぶって複雑な気持ちだった。「麻田国民学校」は同じ場所で立派な校舎に建て替わり「蛍池小学校」に名称が変わっていた。昔の通学路を歩いてみる。途中に「長寿寺」と言うお寺があった。勇気を出して訪ねて見た。住職の奥様と娘さんが出て来られ事情を話すと心良く迎え入れて下さり応接室に通して頂きました。「戦争中や戦後」。現在までの色々な話を聞かせて下さいました。子供の時の記憶と話が重なり合ったり「辻褄」が合ったりで心のつかえが取れ気持ちが休まり、有りがたかったです。

70 年ぶりに当時を思い出して書いていると空襲で「逃げ廻っていた」こと「勉強出来なかった」。「怖かった」。「辛かった」。「ひもじかった」。「寂しかった」。嫌なことばかりが「走馬灯」のように次から次へと思い出され目頭があつくなった。楽しかったことは何も思い出せない。

戦争犠牲者の一人として体験を書きました。

二度と戦争はごめんです。